

PRAEVIDENTIA DAILY (7月8日)

昨日までの世界：米雇用統計前に逆戻り

昨日は、経済指標などの材料が少ない中で、世界的な株安と共に南アランドやブラジルリアルなど一部の新興国通貨やカナダドルが下落したほか、米株安を背景とした米長期債利回りの低下を受けて、連動性が高いドル/円相場は101円台後半へ軟化した。これで米長期債利回りおよびドル/円は、先週3日の米雇用統計発表前の水準に逆戻りしており、好調な米雇用統計にも拘らずドルは非常に上値が重い。

カナダドルは、カナダ経済指標結果を受けて振れており、建設許可件数の予想比上振れ（前月比+13.8%）までは上昇したが、その後カナダ中銀2Q企業景況感サーベイ（実績24、市場予想30）およびIvey購買部協会指数（景況感サーベイの一種。実績46.9、市場予想52.0）の前期および市場予想対比での下振れを受けて急反落した。

豪ドルは、早朝は下落していたが、ANZ求人広告件数が前月比+4.3%と前月のマイナスからプラスに転じたことから大幅に反発した。

ポンドは欧州時間入りにかけて対ユーロで続伸、ユーロ/ポンド相場は一時0.7915ポンドと年初来安値（ポンド高値）を更新したが、その後はこれまでのポンド上昇トレンドに調整が入り、対ドル、ユーロ、円など全般的に反落した。

結果的に、当社が想定していた株価を睨んだ動き、あるいはトレンド追随の動きがどうなったかを検証してみると、確かに株安と共にポンド/円、ドル/円、ランド/円などが下落した一方、ポンドやカナダドルは上昇トレンド継続見通しとは裏腹に反落した結果となった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.2	+0.01	+0.01	-0.00	-0.02	-0.03	-0.00	-0.4	-0.4	-0.5	-0.7
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	-0.00	+0.01	+0.02	-0.01	-0.03	-1.1	-0.4	-0.7	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.02	-0.02	+0.01	-0.00	-0.03	-0.03	-0.6	-0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.01	+0.01	+0.01	+0.03	+0.00	-0.03	-0.4	+0.0	-1.0	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	-0.00	+0.00	+0.01	+0.04	+0.02	-0.03	-0.4	+0.0	-1.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.3	+0.01	+0.01	-0.01	+0.00	-0.03	-0.03	-0.4	-0.5	-1.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

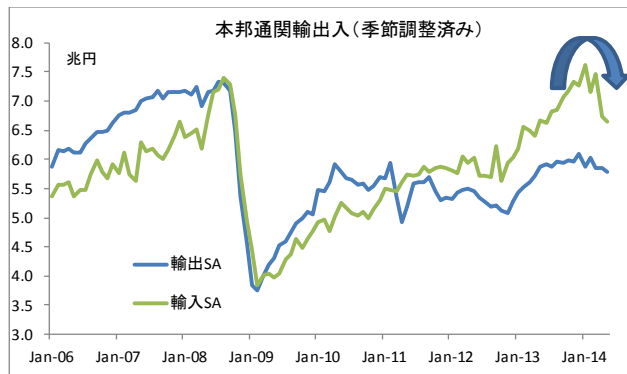
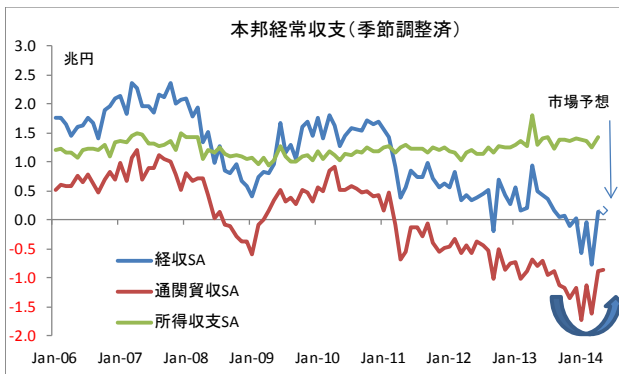
きょうの高慢な偏見：赤字拡大一服を確認へ

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦5月経常収支・季節調整前・円	8:50	+1874億	+4175億	
同・季節調整後		+1305億	+1581億	
中曽日銀副総裁発言	12:45			ややタカ派
Lindeスペイン中銀総裁発言	16:00			
スイス6月CPI前年比	16:15	+0.2%	+0.2%	
英5月鉱工業生産・前月比	17:30	+0.4%	+0.3%	
Lackerリッチモンド連銀総裁発言	1:00			タカ派、投票権なし
Kocherlakotaミネアポリス連銀総裁発言	2:45			ハト派、投票権あり

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も材料が少ないが、ドル/円関連では**本邦経常収支**とFed高官発言が注目される。4月以降の本邦貿易収支・経常収支の動向をみると、輸出は相変わらず増加していない一方、輸入の大幅拡大傾向が一服し相対的に反動減が大きくなっていることから、貿易赤字が縮小し経常収支は再び黒字になってきている（**下図を参照**）。こうした傾向が確認されると、良好な米雇用統計後も上値が重いドル/円の更なる下押し圧力となるだろう。当社は引き続き、7~8月にかけての100円割れの円高リスクを警戒している。Fed高官発言については万年タカ派、万年ハト派的な2名の発言であるため注目度は低いですが、今後利上げに向かっていくにはハト派がどのようにハト派でなくなってくるかが注目されるため、Kocherlakota 総裁発言に注目したい。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641